

表情の違い楽しんで

大府 明治以降のひな人形展

明治―昭和時代のひな人形を集めた企画展が、大府市歴史民俗資料館で開かれている。入場無料。三月十八日まで。原則月曜休館。季節の伝統行事を親しんでもらおうと、毎年この時期に開催。ひな飾り十二組と市松人形七体を展示している。今年も明治維新百五十年にちなみ、明治時代に作られた親王飾りや御殿飾り五組が並んだ。

明治時代のひな飾りには、現代では見られないお歯黒道具のほか、当時広まりつつあった西洋由来のティースセットやガラスの食器

を配置しているのが特徴という。展示担当者は「同じ明治時代でも人形の表情にはつきり

違いがあり、小道具も多様。見比べながら楽しんでほしい」と話す。三月十一日まで、県内各地の博物館などのひなまつり展を巡るスタンプラリーもある。

会場では、資料館が

愛教大大学院の学生による作品も並べられた会場

官学連携を進める愛知教育大大学院（刈谷市）芸術教育専攻で学ぶ学生三人の作品展を同時開催。油彩、ペン画に加え、布にかぎ針で毛糸などを差し込んだ敷物「フックド・ラグ」の作品など計十二点を展示。同大の能楽部が所有する能面八点も見られる。●市歴史民俗資料館 0562（48）1809（宮崎正嗣）



華やかに並ぶ明治時代のひな人形。いずれも大府市歴史民俗資料館で

